

幻の安土城と織田信長

近世城郭の先駆けといわれる安土城は、築後わずか3年で天主が焼失しました。この「幻の名城」の謎解きを進めながら武将・信長の姿にせまる琵琶湖講座。講師として、ご案内いただく小竹森さんにお話を聞きました。

安土城のナゾ

「安土城天主 信長の館」や「滋賀県立安土城考古博物館」には安土城のレプリカが展示されています。これは、あくまで復元案のひとつとしてつくられたもので、じつはその内部の構造までは明らかになっていません。

信長がつくった安土城の天主がどのようなカタチであったのか、またその設計図があるといわれているが果たしてそれが本物かどうか、さらに炎上焼失した経緯についてもさまざまな説があります。そのように確証がないだけに、発掘され見つけた痕跡や物証を手がかりに、多くの人が安土城や信長に歴史ロマンを感じるのではないのでしょうか。

歴史ロマンは人となり

わたしは安土城の発掘に10年間携わってきました。毎日のように山にのぼっていくのは大変でしたが、日々新しい発見があったからこそ続けてこられたのだと思います。

歴史的な史跡を訪ねるとき、そこにあったモノが何だったのかということだけでなく、それをつくった人についても想像力を働かせると楽しいのではないかと思います。

果たして信長は何を考えて安土城をつくったのか？ 本丸に天皇を招くための建物があり、それは御所の清涼殿を裏返しにした設計であったことがわかってきましたが、それは何を意味しているのでしょうか。さらにその部屋は天主よりも下に位置しているのですが、果たして信長は天皇を



どう思っていたのでしょうか。

歴史に登場する人物の人となりにまでいきつくと歴史がもっと面白くなります。わたしは、信長は極めて常識人ではないかと想像しています。常識がなかったら非常識なこともできないですよ（笑）。

映画『火天の城』と 戦国武将ブーム

映画『火天の城』（原作：山本兼一、主演：西田敏行）は織田信長という武将ではなく、安土城の築城に尽力した宮大工・岡部又衛門を主人公とした物語です。最近こうしたメインの武将以外の人物に焦点をあてた歴史小説は多いようですね。この映画の影響で来訪者は増えました。とくに9月のシルバーウィークは凄かったです。若い人や女性グループなど、これまでとは違う層の人たちが訪れるようになりました。

いま<イケメン武将>などといってアニメやゲームなどで戦国武将の気が高まっているようですが、一過性のブームでなく、武将たちからいまを生きるヒントを学んでいただけたら嬉しいですね。

（インタビューをもとに編集部で構成）

小竹森直子
Kotakemori Naoko

滋賀県文化財保護協会調査整理課主任。安土城の発掘に10年以上かかわる。石垣のあるお城を見るのが好き。